

## 吉川市子ども・子育て支援事業計画作成のために実施する利用意向等把握調査 (ニーズ調査)の集計結果を踏まえた分析について

### 1 市の動向

人口に占める高齢者数の割合は、児童数の割合を超えている。そして、児童数の推移、人口は年々増加しているものの合計特殊出生率が平成20年以降減少に転じている。

これらのことから、児童数の底上げを図ることが、今後の大きな課題であり、さらなる子育て環境の整備・充実が必要になっている。

東中学校区域	○児童数は、他の区域と比較し最も少ない区域である。 ○区域内面積は1番広く、市内南北に区域が広がっていることが特徴である。
中央中学校区域	○児童数は、南中学校区域に次いで2番目である。 ○土地区画整理事業が施行中であることから、人口増に伴い子育て世帯の増加が予想される。
南中学校区域	○3つの区域の中で、最も児童数が多い区域である。 ○土地区画整理事業は完了しているものの、住宅等の整備が進行していることから、人口増に伴い子育て世帯の増加が予想される。

#### 【参考】

	総数	平均年齢	三分年齢		
			15歳未満	15～64歳	65歳以上
埼玉県	7,194,556人	43.6歳	953,668人 13.3%	4,749,108人 66.3%	1,464,860人 20.4%
吉川市	65,298人	41.5歳	10,524人 16.1%	43,450人 66.6%	11,299人 17.3%

資料：平成22年国勢調査

	出生数(人)		出生率		合計特殊出生率	
	埼玉県	吉川市	埼玉県	吉川市	埼玉県	吉川市
平成20年	60,520	677	8.6	10.6	1.28	1.47
平成21年	59,725	629	8.5	9.7	1.28	1.36
平成22年	59,437	569	8.4	8.8	1.32	1.33
平成23年	58,059	580	8.2	8.8	1.28	1.29
平成24年	56,943	562	8.0	8.2	1.29	1.27

出生率：人口1,000人に対する1年間に産まれた児童の割合

合計特殊出生率：出生率計算の際の分母の人口数を、出産可能年齢(15～49歳)の女性に限定し、各年齢ごとの出生率を足し合わせ、一人の女性が生涯、何人の子供を産むのかを推計したもの。

資料：埼玉県の人口動態概況

## 2 教育・保育事業

### (1) 【幼稚園】

現状	<p>○市内には、5か所の私立幼稚園が設置され、送迎バスも実施されており広域利用が図られている。</p> <p>○市の幼稚園利用者は1,412人（H25.5.1）である。</p> <p>○ニーズ調査の結果から潜在的なニーズを含め、1,385人と算出されており、市全域でみると現在の施設数で需要を満たしている。（参考：資料2で算出した量の見込み）</p> <p>○ニーズ調査の結果から夏休み等の利用希望が毎日の利用と週に数回を合わせると57.1%と高い割合を示している。（参考：ニーズ調査就学前「問18」）</p>
課題	<p>○ニーズ調査の結果から空きがない、時間帯の条件が合わない、経済的な理由で利用できないとしている割合が21%となっている。（参考：ニーズ調査就学前「問13-5」）</p> <p>○ニーズ調査の結果から、日曜日の利用希望は15.2%となっている。（参考ニーズ調査就学前「問17（2）」）</p>
方針	<p>○特定教育施設として質の高い幼児教育の促進を図る。（施設型給付費の適用、処遇改善）</p> <p>○幼稚園での一時預かり事業の推進を図る。</p> <p>○子ども・子育て支援新制度の周知を図る。</p>

(2)【保育所】

現状	<p>○市内には、9か所の認可保育所が設置されているが、現行水準でも待機児童や入所待ち児童が発生している。</p> <p>○平成24年度から送迎保育事業を開始し、保護者の多様なニーズに応えている。</p> <p>○ニーズ調査の結果から母親が就労している方のうち76.0%は、80時間以上で、48時間から80時間未満は、12.0%となっている。</p> <p>(参考：ニーズ調査就学前「問10(1)、問10(1)-1」)</p>
課題	<p>○保育事業にあっては、入所待ち児童の解消が最も重要な課題である。</p> <p>○ニーズ調査の結果から潜在的ニーズを含め、平成27年度において1,561人と算出されており、需要が満たされていない。</p> <p>○複数の土地区画整理事業地内において住宅等の整備が進行しており、引き続き子育て世帯の人口増が見込まれる。</p> <p>○就労下限時間を新基準に合わせると、待機児童や入所待ち児童が増えることが確実である。</p> <p>○ニーズ調査の結果から、日曜日の利用希望は15.2%となっている。(参考ニーズ調査就学前「問17(2)」)</p>
方針	<p>○待機児童加速化プランに基づき保育所の整備をより強力で推進する。</p> <p>○既存認可外保育施設について地域型保育事業への移行を推進する。</p>

### (3) 【地域型保育】

現状	<ul style="list-style-type: none"><li>○認可外保育施設は、認可保育所へ入所できなかった待機児童等の受け皿となっている。</li><li>○小規模保育事業への移行を希望している施設がある。</li><li>○ニーズ調査の結果から地域型保育事業（小規模な保育施設、家庭的保育、事業所内保育施設、居宅訪問型保育）の利用希望は16.4%となっている。（参考：ニーズ調査就学前「問14」）</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>○ニーズ調査の結果から空きがない、時間帯の条件が合わない、経済的な理由で利用できないとしている割合が21%となっている。（参考：ニーズ調査就学前「問13-5」）</li><li>○認可と変わらない水準での利用料が求められている。</li><li>○現在より質の高い保育が求められている。</li></ul>
方針	<ul style="list-style-type: none"><li>○地域型保育事業への移行を勧め、質の高い保育の推進を図る。（認可保育所と同等の応能負担となる。）</li></ul>

## 3 地域子ども・子育て支援事業

### (1) 【利用者支援事業】

現状	<ul style="list-style-type: none"><li>○利用者支援事業は実施していない。</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>○制度自体も複雑になってくることから、より利用者本位で相談・支援事業ができる体制が求められる。</li></ul>
方針	<ul style="list-style-type: none"><li>○他の自治体で大きな成果を上げており、当市においても設置場所や、担当職員について検討を重ね将来的に配置していく必要がある。</li></ul>

(2) 【地域子育て支援拠点事業】

現状	<p>○3か所の地域子育て支援拠点がある。</p> <p>○ニーズ調査の結果から、利用していない方のうち、30.1%の方が今後の利用を希望している。 (参考：ニーズ調査就学前「問16」)</p> <p>○ニーズ調査の結果から、既に利用している方のうち利用日数を増やしたい方が13.4%いる。(参考：ニーズ調査就学前「問16」)</p> <p>○ニーズ調査の結果から0～2歳の方の利用が最も多く36.9%となっており、在宅で子どもを抱えた保護者の利用が高いと推測できる。(参考：ニーズ調査就学前「問2」、「問15」)</p>
課題	<p>○より興味を持って利用してもらうため、事業内容の充実が求められている。</p> <p>○より身近な地域に設置を望む声がある。</p> <p>○わかりやすく情報を紹介することが求められている。</p>
方針	<p>○事業の内容等について充実を図り、利用しやすいサービスを目指すとともに、利用したい方へサービスの周知が図れるよう周知方法についても工夫していく。</p> <p>○新たな設置の必要性について検討を行う。</p>

【参考】

栄町及び美南子育て支援センター延べ利用者数

(単位：人)

	栄町子育て支援センター	美南子育て支援センター (H25.3.31までは児童館内)
平成23年度	715	6,027
平成24年度	6,012	5,713
平成25年度 (H26.2月末現在)	3,956	11,971

※平成23年度の栄町子育て支援センター延べ利用者数は、1か月分の実績である。

(3) 【子育て短期事業】

現状	○2事業者と契約しているが、事業実施以来、利用者はいない。
課題	○制度自体をさらに周知していくことが求められている。
方針	○利用実績はないが、サービスを利用したい方へサービスの周知が図れるよう、周知方法について工夫する。

(4) 【ファミリー・サポート・センター事業】

現状	○利用会員は、年々増加している。 ○ニーズ調査の結果から現在の利用者は、1.1%であるが、利用希望者は、11%（小学生1.4%）となっている。 （参考：ニーズ調査就学前「問14-1」） （参考：ニーズ調査小学生「問13」）
課題	○利用会員のニーズに対応することができずに、利用できなかった方や、経済的な理由で利用できなかった方もいることが予想されることから、さらに利用しやすいサービスとすることが求められている。 ○ニーズ調査の結果により、当事業についての認知度を事業の理解を含め、さらに高める必要がある。 （参考：ニーズ調査就学前「問28」）
方針	○利用会員及び提供会員の増加策を講じる。 ○利用者の経済的負担の軽減策を検討する。 ○相談窓口の増設について検討する。

【参考】

ファミリー・サポート・センター事業利用実績

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
利用会員	348人	375人	352人	400人	429人
提供会員	87人	87人	81人	85人	86人
両方会員	78人	85人	79人	83人	99人
活動件数	1,554	1,323	1,302	1,275	1,916

(5) 【一時預かり事業】

現状	○ニーズ調査の結果から、現在一時預かり等を利用している方は、14.3%であるが、利用希望者は、40.5%となっており、私用、リフレッシュ、冠婚葬祭、学校行事等の理由での希望が50%を超えている。 (参考：ニーズ調査就学前「問20」、「問21」)
課題	○利用希望者は、40.5%となっていることから一時預かり事業の拡大が求められている。
方針	○保育所の整備を図り、一時預かり事業を推進する。 ○幼稚園の一時預かり事業の推進を図る。

【参考】

一時預かり保育延べ利用者数

(単位：人)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
延べ利用者数	2,726	2,690	2,429	2,575	1,992

(6) 【時間外保育事業】

現状	○時間外保育・延長保育事業の平成24年度の延べ利用者数は、21,111人となっている。 ○ニーズ調査の結果から母親の82.9%の方は、午前7時から午前9時までに家を出ており、88%の方が午後8時までに帰宅している。 (参考：ニーズ調査就学前「問10(1)-2」)
課題	○保育所の入所待ち児童や、ニーズ調査の結果から現在就労していない母親のうちフルタイムへの就労希望が13.8%であることから時間外保育・延長保育事業の利用希望者の増加が見込まれる。(参考：ニーズ調査就学前「問12(1)」)
方針	○保育時間は、引き続き午前7時から午後7時(最大午後8時)まで実施していく。 ○待機児童加速化プランに基づき保育所の整備を推進する。

【参考】

①時間外保育・延長保育事業延べ利用者数

(単位：人)

	平成23年度	平成24年度
延べ利用者数	18,330	21,111

②時間外保育・延長保育事業の保育時間

・平日：午前7時から午前8時30分まで

午後4時30分から午後7時まで

※コピーリスクールよしかわステーションのみ午後8時まで延長保育を実施している。

・土曜日：午前7時から午前8時30分まで

正午から午後5時まで(市立保育所及び民間保育所1か所)

正午から午後7時まで(民間保育所6か所)



(7) 【病児・病後児保育事業】

現状	<p>○利用実績が低下している。その原因として、予約をしたが回復等でキャンセルとなることや、ニーズ調査の結果から、利用したいと思わない方が69.1%で、その理由の中で最も高かったのは、他人に看てもらおうことへの不安が50.3%で、その他に利用料がかかる・高い、登録や手続き、預ける準備が面倒等も原因の一つとして考えられる。</p> <p>(参考：ニーズ調査就学前「問19-2」、「問19-3」)</p> <p>○ニーズ調査の結果から、病児・病後児保育の利用希望は、29%となっている。</p>
課題	<p>○利用したいと思わない方に対する事業の理解を深めるため、事業内容、周知方法等の工夫が必要である。</p>
方針	<p>○事業内容、周知方法等について検討する。</p>

【参考】

	平成24年度		平成25年度 (H26.2月末現在)	
登録者数	491人		677人	
新規登録者数	140人		186人	
	申込み件数	内利用者数	申込み件数	内利用者数
	724	384人	560	281人

(8) 【放課後児童クラブ事業】

<p>現状</p>	<p>○ニーズ調査の結果から平日では午後6時台が最も多く14.4%となっている。(参考：ニーズ調査就学前「問23」)</p> <p>○ニーズ調査の結果から就学前では、19.4%、小学生では、16.3%の方が高学年での利用を考えている。 (参考：ニーズ調査就学前「問24」) (参考：ニーズ調査小学生「問13」)</p> <p>○ニーズ調査の結果から土曜日の高学年での午前7時からの利用希望が14.8%で、81.4%は、現在の時間帯で対応できている。(参考：ニーズ調査就学前「問25(1)」)</p> <p>○ニーズ調査の結果から日曜日・祝日の学童保育室の利用希望は、低学年と高学年までを含めると就学前では19.4%で、小学生では、24.2%となっている。 (参考：ニーズ調査就学前「問25(2)」) (参考：ニーズ調査小学生「問14(2)」)</p>
<p>課題</p>	<p>○ニーズ調査の結果から土曜日の終了時間は、午後6時が最も多く就学前では37%、小学生では50.9%あるが、現状では午後5時までの利用となっており、就学前では33.3%、小学生では24.4%の意向に応える程度である。また、ニーズ調査の結果から、母親の平日の就労状況は午後8時に帰宅する方も就学前では5.6%、小学生では4.3%あることから、平日の利用時間についても延長が求められている。 (参考：ニーズ調査就学前「問10(1)－2、問25(1)」) (参考：ニーズ調査小学生「問10(1)－2、問14」)</p> <p>○ニーズ調査の結果から長期の休暇中の学童保育室の利用希望は、32.7%で、平日の高学年の利用希望より13.3%高くなっている。このことから、長期の休暇中のみ利用したいと考えている方もいると考えられる。 (参考：ニーズ調査就学前「問24」、「問26」)</p>
<p>方針</p>	<p>○平日や、土曜日の利用時間の延長について検討する。</p> <p>○指導員の確保方策について検討する。</p> <p>○長期休業中のみの利用可能性について検討する。</p>

【参考】

学童保育室保育時間

- ・通常時           平 日   放課後～18時30分(延長19時)
- ・学校休校日   平 日   7時30分～18時30分(延長19時)
- 土曜日   8時～17時

## (9) 【その他】

○ニーズ調査の結果から、82.1%の方は、子育てについて「楽しい」又は「楽しいと感じることの方が多い」と回答しており、小学生では、73.9%で、就学前の方が高い。これは、現在、小学生の母親で仕事をしている方が、63.8%で、就学前では、36.1%となっており、仕事と子育ての両立の中でストレスを感じていることも一つの要因とも考えられる。

(参考：ニーズ調査就学前「問7」、「問10」)

○ニーズ調査の結果から、育児休業を取得した割合は、母親の24.1%に対し、父親は2.6%に留まっている。(およそ10倍の差) また、取得していない割合も母親が12.8%に対し、父親は87.7%となっており大きな差があった。取得していない理由として、母親は子育てや家事に専念するために退職したが一番多く、父親は仕事が忙しかったが一番多かった。また、父親については、職場に育児休業を取りにくい雰囲気があったという回答も37.3%と3番目に高い数字となった。

(参考：ニーズ調査就学前「問27」)

○ニーズ調査の結果から、1歳になったときに必ず預けられる事業があれば、88.9%の方は、育児休業を取得したいと考えている。1歳になる前に復帰したい方は、11.1%で、仕事への魅力や経済的な問題等が考えられると予想する。

(参考：ニーズ調査就学前「問27-2」)

○<保育サービス>

満足又はどちらかと言えば満足と回答した方が、28.4%で、不満又はどちらかと言えば不満と回答した方は30.4%と満足感が、不満感を下回った。この結果は、自由意見からも見て取れるように保育所の入所待ちや保育所、学童保育室の運営に対する要望などが一つの要因と考えられる。

○<仕事と家庭生活の両立>、<子どもを対象にした犯罪・事故の軽減>

2つの項目は満足感が、不満感を下回った。このことから、ワークライフバランスや、犯罪・事故の軽減を図っていくことが求められている。

(参考：ニーズ調査就学前「問28」)(参考：ニーズ調査小学生「問17」)